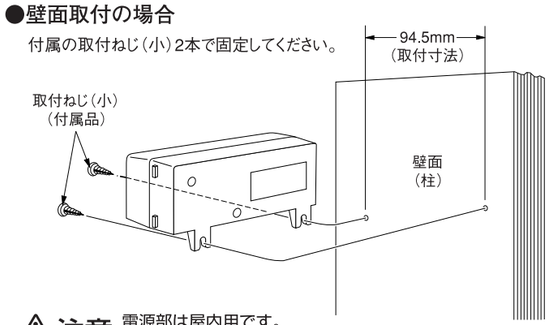
■電源部の取付かた

●壁面取付の場合

付属の取付ねじ（小）2本で固定してください。



⚠注意 電源部は屋内用です。
屋外では使用できません。

■電源部標準性能表

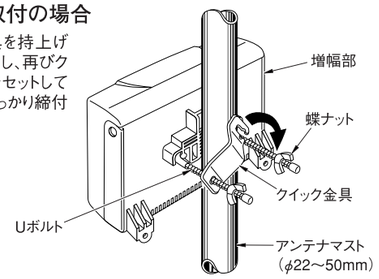
項目＼型名	NPS-15F
伝送チャンネル（ch）	FM・1～62
挿入損失（dB）	1.0以下
電圧定在波比	1.5以下
入力・出力インピーダンス（Ω）	75（F型）
電源電圧（V／W）	AC100（50／60Hz）／6.0
重畳電圧（V／mA）	DC15／最大150
使用温度範囲（℃）	−10～＋40　※1
寸法（mm）	高さ40　幅127　奥行60
質量（g）	360

※1　本体周囲温度

■増幅部の取付かた

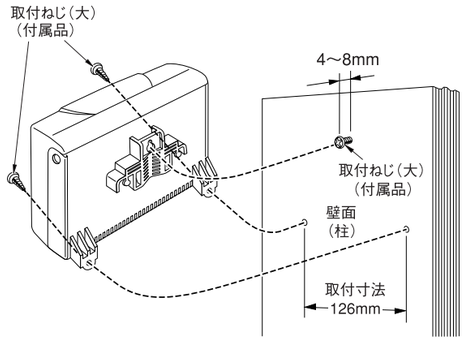
●マスト取付の場合

クイック金具を持上げマストに挿入し、再びクイック金具をセットして蝶ナットでしっかり締付けます。



●壁面取付の場合

壁面の表面から4～8mm出るようにして付属の取付ねじ（大）をねじ込んでください。本体上部を取付ねじ（大）にひっかけて固定してから下部を付属の取付ねじ（大）2本で固定してください。



ポイント マスト取付用金具一式は取りはずしてください。

■増幅部標準性能表

項目＼型名	N-35TU3			備考
周波数帯域	VHF	UHF		
受信チャンネル（ch）	FM・1～12	13～33・44～62	36～40	
利得（dB）	0～−2（パス）	26～35	12～19	
利得調整範囲（dB）	——	0～−10	0～−10	
切換式固定ATT減衰量（dB）	——	——	0／−10	
適正入力レベル（dBμV）	60～100	45～84	60～100	
定格出力レベル（dBμV）	——	100（7波）		※1
雑音指数（dB）	——	3.0～10.0	——	※2
相互変調［IM3］（dB）	——	−64以下		
入力・出力インピーダンス（Ω）	75（F型）			
電圧定在波比	3以下			
重畳電源（V/A）	DC15／0.1			
消費電力（W）	4.0			
使用温度範囲（℃）	−10～＋40			本体周囲温度
寸法（mm）	高さ120.7　幅150　奥行57			
質量（g）	500			

※1 アナログ7波＋デジタル9波の値（デジタル−10dB運用）。　※2 ch33、44は除く。
●同軸ケーブルの接続は全てF型。
●適正入力レベル範囲はチャンネル数および各チャンネルのレベル差などにより多少異なります。

お客様窓口専用ダイヤル　(03) 3893-5243　ご利用時間　9:00～18:00（土・日・祝祭日・弊社休業日を除く）

情報通信が仕事です。
日本アンテナ株式会社
本社／〒116-8561 東京都荒川区西尾久7-49-8 ☎（03）3893-5221（大代）
ホームページアドレス http://www.nippon-antenna.co.jp/

※製品改良のため、仕様、外観の一部を予告なく変更することがあります。

D841013012　平成21年8月

NIPPON ANTENNA

取扱説明書

電源分離型ブースター（特定地域向け）

屋外用 UHF（13～33・44～62ch／36～40ch）帯域用、VHF混合通過型

MODEL **N-35TU3**

●このたびは、日本アンテナの製品をお買い上げいただきありがとうございます。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保存してください。また、正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ず「安全上のご注意」をごらんください。

"ブースターは正しくお使いください"

●入力端子・出力端子の配線は、取扱説明書にしたがい確実におこなってください。
●入力側と出力側のケーブルは、束ねたりブースターに巻きつけないでください。
●ブースター出力の配線は、同軸ケーブルをご使用ください。
●アンテナマストに取付ける場合はアンテナとブースターは1m以上離してください。

ブースターを正しく取付けないとご自宅やご近所のテレビの写りが悪くなることがあります。

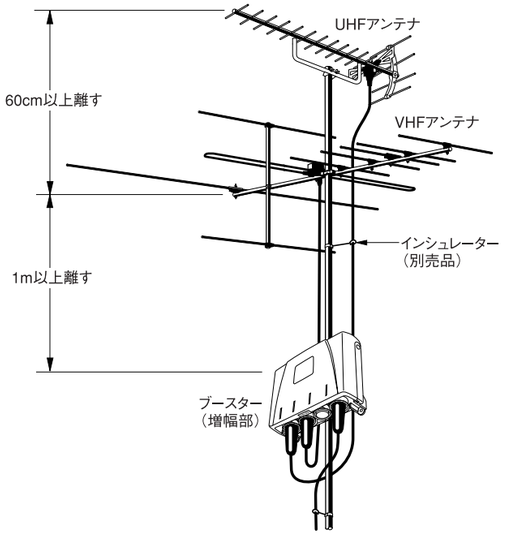
⚠注意

●入力・出力端子のケーブル配線および接続は確実におこなってください。（入力端子・出力端子の接続方法が悪いと画像不良の原因となります。）

ポイント

●コネクターの接続は確実におこなってください。コネクターがゆるんでいると、風によるケーブルの振動などにより、コネクターがはずれることがあります。ケーブルは別売のインシュレーターでしっかり固定してください。

●付属品
- 防水キャップ ……3個
- 5C接栓（リング付）……5個
- 壁面取付ねじ（大：3本、小：2本）……5本



■特 長

●ブースター（増幅部）

1. **高阻止帯域減衰特性**
本器は高阻止量のフィルターを内蔵していますので、36～40chの電波が非常に強い地域でも混変調や飛込み障害などの受信障害を起こすことなく、13～33・44～62chの電波を増幅できます。
2. **地上デジタル放送・地上アナログ放送対応**
本器は地上デジタル放送にも地上アナログ放送にも対応しています。また、従来のアナログ放送波による地上デジタル放送波への影響を防止する設計になっております。
3. **利得調整可能**
UHF帯域の利得を調整できます。
4. **シールド構造**
増幅部の内部はシールド構造となっておりますので、電波の漏洩や飛込み防止に効果があります。

●電源部

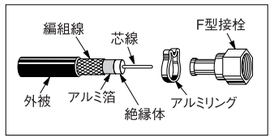
1. **過電流保護回路を内蔵**
電源部には電源部とブースター（増幅部）の間でショートなどの異常があった場合に、電源部を保護する過電流保護回路が内蔵されています。
2. **シールド構造**
信号伝送部はシールド構造となっておりますので、電波の漏洩や飛込み防止に効果があります。

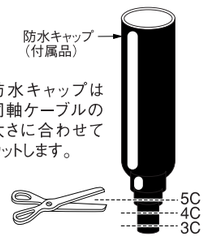
日本アンテナ

■同軸ケーブルの加工方法とF型接栓の取付方法

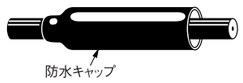
◆用意するもの
カッターまたはナイフ、ハサミまたはニッパー、ペンチ。

■各部の名称

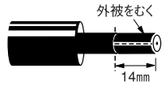




防水キャップは必ず先に同軸ケーブルに通してください。

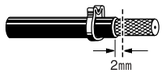


❶ カッター、ナイフなどで点線の部分をカットします。（深さ1㎜程度）



❷ 外被をむき、アルミリングを通しておきます。

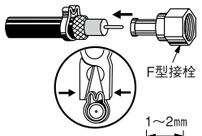
❸ 外被から2㎜程度はなして編組線をていねいに切り落としてください。



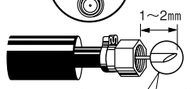
❹ 編組線をめくりあげます。

❺ 編組線から3㎜はなして絶縁体とアルミ箔を同時に切り、抜きとります。

❻ F型接栓をアルミ箔と編組線の間に挿入し、アルミリングをペンチなどでつまんでしっかりつぶしてください。



❼ 芯線の先端は1～2㎜出し、斜めにカットしてください。
芯線が長いと接続端子を破損する場合があります。



ポイント

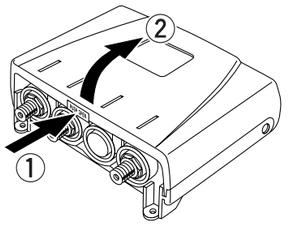
- ●絶縁体をカットするときは芯線をキズつけないように注意し、芯線が編組線とアルミ箔に接触していないかをご確認ください。
- ●芯線に付着物がないか確認し、付着物がある場合は、きれいにとってください。
- ●芯線の外径が1.5mm以下の同軸ケーブルをご使用ください。外径が1.5mmより太い場合は、ピン付接栓をご使用ください。（※同軸ケーブルを取換える場合は、以前使用していた同軸ケーブルと芯線の外径が同じ同軸ケーブルをご使用ください。）

●F型接栓締付トルク　2.0N・m（約20kgf・cm）

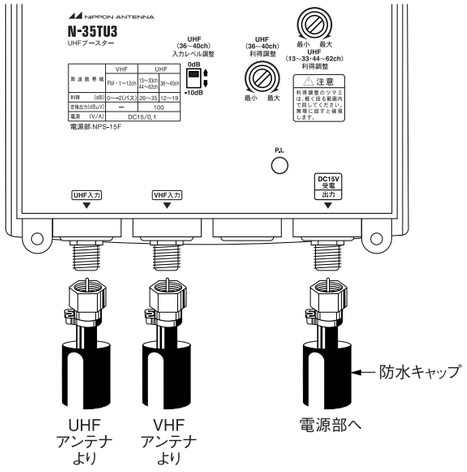
⚠注意
加工の際、切りくずの扱いや工具の使用には十分注意してください。思わぬケガの原因となります。

■増幅部の接続方法

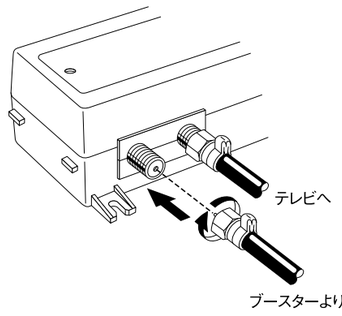
●ケースの開けかた



“PUSH”文字部を指で押して、カバーを本体に対して直角程度まで開くとストッパーで固定されます。
レベルなどの調整が完了したら、カバーをしっかり閉めてください。



■電源部の接続方法



⚠注意

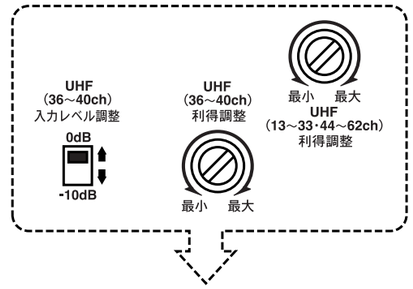
- ●ブースターへの接続やテレビへの接続は確実におこなってください。故障の原因になります。
- ●電源部とブースター（増幅部）の間で万一ショートしている場合、電源部保護回路が働き、ブースターは動作しません。電源プラグを電源コンセントから抜いて、配線などを点検してください。

⚠注意

- ●電源部の設置場所はテレビの上などの風通しの良い、目の届く位置に設置してください。押入や天井裏などの見えない場所や、水のかかる所、湿気の多い所はさけてください。
- ●電源部の上には可燃性の物をのせないようにご注意ください。
- ●長時間ご使用にならないときは、電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

■使用例、接続例および調整方法

出荷時の設定　●UHF（36～40ch）（利得調整　最大、入力レベル調整　0dB）
●UHF（13～33・44～62ch）（利得調整　最大）



●入力レベル調整と利得調整について

■地上デジタル放送（UHF）について

◎テレビ画面が映らなかったり（ブラックアウト）、モザイク状のノイズ（ブロックノイズ）が出ている場合

受信電波が強すぎる時や、弱い時などにおこります。

受信電波が強すぎる場合

- ●利得調整ツマミを“最小”方向へ回して、鮮明な画像になるように調整してください。
- ●調整をしても地上デジタル放送の映りが改善しない場合は、UHF入力レベル調整スイッチを“−10dB”側へセットし、再度UHF利得調整ツマミを左右に回して調整してください。

受信電波が弱い場合

- ●利得調整ツマミを“最大”方向へ回して、鮮明な画像になるように調整してください。
- ●利得調整をしても鮮明な画像にならない場合は、アンテナの位置、方向および高さなどを調整してください。

■地上アナログ放送について

◎テレビ画面にビート（斜め縞の障害）が出ている場合

受信電波が強すぎる時におこります。

- ●UHF入力レベル調整のスイッチを“−10dB”側へセットしてください。
- ●UHF利得調整ツマミを“最小”方向へ回して、鮮明な画像になるように調整してください。

◎テレビ画面にスノーノイズ（ザラザラ画面）が出ている場合

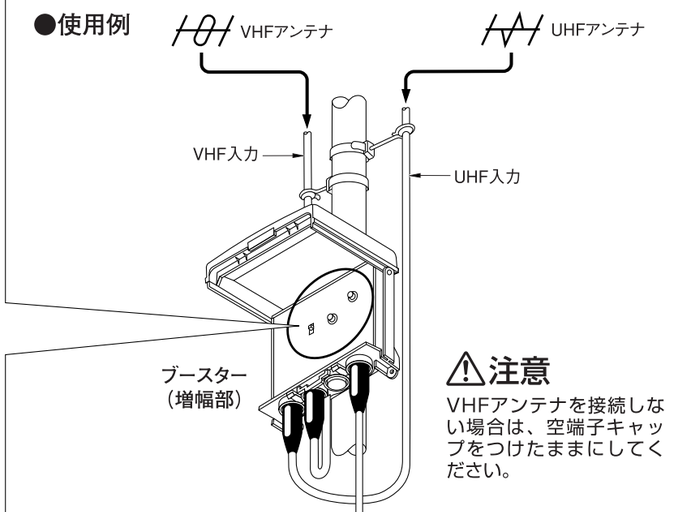
受信電波が弱い時におこります。

- ●UHF利得調整ツマミを“最大”方向へ回して、鮮明な画像になるように調整してください。

ポイント

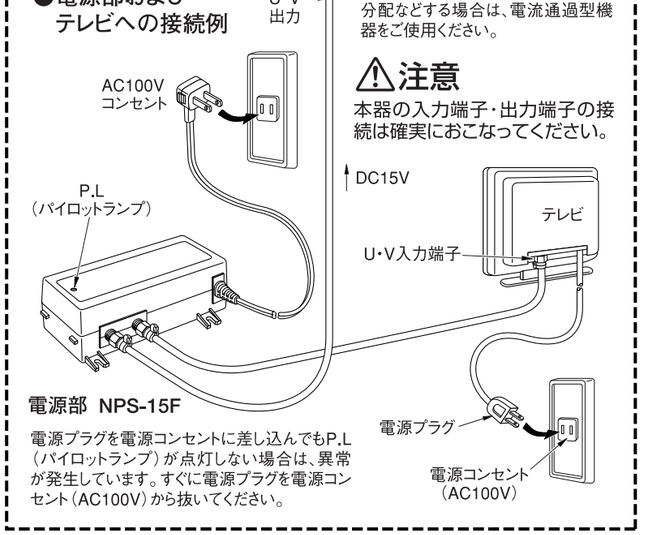
調整をしても受信電波が強い場合は、別売の減衰器（アッテネーター）を該当する入力端子に接続してください。

●使用例



⚠注意
VHFアンテナを接続しない場合は、空端子キャップをつけたままにしてください。

●電源部およびテレビへの接続例



電源部とブースター（増幅部）の間で分配などする場合は、電流通過型機器をご使用ください。

⚠注意
本器の入力端子・出力端子の接続は確実におこなってください。

電源部　NPS-15F

電源プラグを電源コンセントに差し込んでもP.L（パイロットランプ）が点灯しない場合は、異常が発生しています。すぐに電源プラグを電源コンセント（AC100V）から抜いてください。

■使用上のご注意

アンテナレベル※について

注1　デジタルテレビなどの“アンテナレベル”の数値は、アンテナ設置方向を確認する際の目安値です。電波の強さを表す値ではないため、本器を使用しても大きくなるとは限りません。※名称はメーカーによって異なります。

デジタル放送受信について

注2　本器設置後、テレビ画面が映らない（ブラックアウト）、画面上にモザイク状のノイズ（ブロックノイズ）などの症状が出る場合は、調整の他に以下の項目をご確認（調整して）ください。

ーテレビ（チューナー）への入力レベルが低い場合ー

- ●地上デジタル放送受信の場合は、受信エリアをご確認ください。
- ●アンテナの位置、方向および高さなどを、調整してください。

ーテレビ（チューナー）への入力レベルが高い場合ー

- ●テレビのアンテナ入力端子に減衰器（アッテネーター、別売品）を取付けてください。

アナログ放送受信について

注3　本器設置後、テレビ画面がザラザラになったり（スノーノイズ）、自動車などによる雑音、その他雑音が出る場合はアンテナ設置の位置、方向および高さなどを変えて、最良の画像が得られるように調整してください。

注4　ゴースト障害（多重画像）は本器を使用しても改善しません。

デジタル放送受信・アナログ放送受信について

注5　チャンネル間のレベル差が極端に大きいと、レベルの低いチャンネルに斜め縞の障害（ビート）やモザイク状のノイズ（ブロックノイズ）などが出る場合があります。

機器の接続について

注6　電源部とブースター（増幅部）の間に電流通過型ではない分岐・分配器などが接続されていると、本器は正しく動作しません。電流通過型の分配器などをご使用ください。また、分配器などの電流通過端子に接続されているかご確認ください。

電源部について

注7　電源部は本器専用です。他のブースターなどに使用しないでください。

注8　電源部は少し温かくなりますが、これは電子部品の放熱作用によるもので異常ではありません。